

タイトル： 第2回 RHIC, SPS での高エネルギー重イオン実験の現象論的解析

日時： 11月4日(木)、5日(金)

場所： RCNP(大阪大学核物理研究センター)本館4階講義室

研究会世話人

美谷島実

所属： 信州大学理学部

e-mail: biyajima@azusa.shinshu-u.ac.jp

鈴木尚通

所属： 松本大学総合経営学部、

e-mail: suzuki@matsu.ac.jp

室谷 心(連絡責任者)

所属： 徳山大学福祉情報学部、

e-mail: muroya@yukawa.kyoto-u.ac.jp

参加者 30名 (内外国からの参加者1名)

内容：

昨年に引き続いて、PHENIX 実験グループの協力を得て表記の第2回研究会を開催した。2003年-2004年にかけて解析されたデータの紹介及び解析途中のデータの紹介があった。更に、将来計画としてLHCでの重イオン物理についての紹介があった。特に、横運動量の楕円流( $v_2$ )について、クオークのコアレスセンスモデルによる解釈が良いという報告が印象的であった。

その後、理論家によるRHIC及びSPSのデータについての現象論的な解析が報告され、流体モデルに基づく諸計算、HBT効果の総合報告、分子動力学的モデルによる計算、シミュレーションによる粘性の評価、確率過程による粒子分布の解析等が報告され、理論の枠組みの検証と解析結果についての検討がなされた。

その他、センタウロ事象の再解析の報告やクオークモデルと分散公式に基づく共鳴状態の分類についての講演もあった。

成果：

研究会で発表に使われたスライドをインターネット上に公開している。

<http://www2.tokuyama-u.ac.jp/muroya/rcnp04/index.html>

研究会報告(印刷物)は、「素粒子論研究」に投稿され、2005年の早い時期に掲載される予定であり、さらに上記ホームページにも公開する予定である。